

1	審議会名	真田地域協議会
2	日 時	平成24年7月18日(水) 午後7時00分から午後8時20分まで
3	会 場	真田地域自治センター3階 301会議室
4	出席者	一之瀬勤委員、佐藤久美子委員、清水茂委員、関貞徳委員、高寺修委員 竹村尚美委員、田中新平委員、長崎伊登子委員、半田卓委員、半田榮範委員 牧内勝年委員、牧野雅子委員、松木節子委員、丸山進委員、山口市江委員 山宮浩美委員、若林ゆき子委員 【欠席委員】3名
5	市側出席者	高橋センター長、荒井地域振興課長、西澤市民生活課長、小宮山健康福祉課長補佐 滝澤産業観光課長、中山建設課長、佐藤上下水道課長、藤沢教育事務所長 佐藤消防署長、滝沢地域政策係長、林主査
6	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成24年8月6日
協 議 事 項 等		
1	開 会 (関副会長)	
2	<p>会長あいさつ (半田会長)</p> <p>前回の現地視察に続き、いままで説明を受けたことのなかで、これから協議会を進めていく上でのテーマを絞っていききたいと思うので御意見をいただきたい。最終的には人数的なことも勘案して3分科会程度に分かれることがよいのではないかと考えるが、それらを含めて皆さんにお諮りしたいと思うのでよろしく願いしたい。</p>	
3	<p>センター長あいさつ (高橋センター長)</p> <p>今週16日(月)から20日(金)にかけて全日本ラグビーの代表候補約40名の選手が菅平に11年ぶりに合宿に来ている。16日には市長以下上田駅で出迎え、昨日は市長代理として真田産のブルーベリーの差し入れをした。2019年のラグビーワールドカップが日本国内で開催されることが決まっております。菅平ではワールドカップにあわせて合宿地として世界のチームを呼び込みたいということで施設整備も含めて現在検討をしている。良い時期に全日本の代表チームが菅平での合宿に戻って来ていただけたと思っている。また、先月6月中には発表になるのではないかと言われていた2014年のNHK大河ドラマの題材だが未だ発表となっていない。良い情報が少ないが期待を持ち、待ちたいと思う。前回の協議会では多くの委員の皆さんに地域内の視察をしていただいた。新しい傍陽小学校の中や菅平の現地を見ていただいた。本格的な協議に入るなかで協議会のテーマと今後の進め方について議論いただきたい。</p>	
4	<p>協議事項 (進行: 半田会長)</p> <p>(1) 今後の協議会の進め方について</p> <p>～資料に基づき、説明～</p> <p>(会長) 参考までに資料を配布した。真田地域のまちづくり方針については、これまでに担当から説明があったが内容を記載してあるので確認願いたい。今後の協議会はどのようなテーマで進めていくべきか皆さん一人ずつの御意見をお聞きし、絞っていききたい。</p> <p>(委員) 何をテーマにするかということは非常に難しいが、高齢化社会を迎えて公共交通の関係を取り上げ、公共交通を盛り上げていくことが必要かと考える。</p> <p>(委員) 路線バスの関係で、ゆきむら夢工房の前にバス停ができたが近くの自治会からの利用者が少ないのではないかと感じることもあり公共交通について取り組みたい。</p> <p>(委員) 20年程前に真田へ越してきて、これまでに上田も含めて思うことは、非常に優れた観光資源や農業、自然・風景や住む人々など良いものが沢山あるにも関わらず十分に生かしてい</p>	

ないのではないかとということ、市外・県外への情報発信ができていないと感じている。一昨年まちづくり方針の中にもある魅力ある農業の推進について委員として関わった農業振興戦略プランの策定がなされ、また、一方では観光の戦略プランも練られたということで様々な取組みがなされているが、これらがばらばらに動いては情報発信ということは難しいのではないかと感じている。そこで真田地域では上田市も含め地域ブランドの確立ということが必要なのではないかと考える。地域ブランドの確立ができたならば農業、農産物、観光に良い影響があり、観光客の増加、それによる路線バスの乗客の増加も見込めるのではないかと、産業の活性化や遊休荒廃地対策、ひいては少子高齢化対策にも繋がるのではないかと考えるので地域ブランドの確立について研究したい。合併後から始まった地域協議会はこれまで市からの案件を協議することが多かったが、これからは地域協議会が積極的に発信していかなければと思う。

(委員) 地域まちづくり方針にある安心して暮らせる地域づくりについて研究したい。一昨年の集中豪雨では不安な思いもした。自主防災組織も作られているが実際の有事の際には勤務の都合などからすぐに活動できない人もいるように思うので、自治会の組織の活動も含めて研究してはどうかと思う。

(委員) 前回、傍陽小学校を視察したが児童数の減少が心配になった。傍陽地域では商店やガソリンスタンドなどの閉店が続き、住みにくくなってきているように思う。子供の数に比例してその親世代も減少して老人世帯だけになってきている。若い世代が住まなければバスへの乗車も増えないであろうと思う。若い世代の定住ということについて協議ができたらと思う。

(委員) 地域協議会の位置づけが理解できていないので、何を協議して何をしようとするのかを再度説明願いたい。

(会長) 委員の皆さんからの意見をお聞きした後に事務局から説明願います。

(委員) 特色ある観光の振興、真田氏発祥の郷を生かした観光の推進ということで、夢工房、新鮮市を基点とした観光拠点づくりを考えた。前にある山での里山づくりから本城跡、長谷寺など真田氏ゆかりの地を巡る拠点となる里山づくりを考えたい。また、協議会の委員としてそれぞれ女性団体の長が出てきていると思うが、これら女性の団体の存続を非常に懸念している。女性団体が無くなったらどうなるのか、なくなっても良いのかを考えていただきたい。どの団体も高齢化や会員の減少に苦慮し将来の展望ができなくなっている。

(委員) 安心して暮らせる地域づくりのなかで、60・70代の人たちが増加することが見込まれるので福祉の面について考えてはどうかと思う。また、観光について、案内看板についても考えてはいかがかと思う。

(委員) バスの問題については、高齢化などでバス停まで来ることができない人が増えてくると思う。若い人たちが残れる地域にすること、真田氏に限らず地域の資源を活用し地域の発展に繋がることを、新しい観光資源などを作り出すことなど考えてはどうか。

(委員) 地域の人たちが自立して住める状態にならないだろうか、全ての年齢層の人がそれぞれの気配を感じながら生活できないかと考えている。ある地域では、飲食店や商店、老人施設や保育園がまとまった地域に存在し、自分の目的の場所へ行くことで全ての年齢層の人の気配を感じられた。それぞれの施設で運行しているバスをシェアすることで交流も生まれるかと思う。傍陽地域では少子高齢化が進み、商店も無くなったため自分では買い物に行けない高齢者が増えているが、目的の場所に行った人としか交流が生まれにくい。それぞれの人が自分の目的地に行くことで必然的に全ての年齢層が集まるような場所が真田地域にできないかと考えている。

(委員) 路線バスに乗ることでバス停まで歩いて行くということがまず問題となる。体が動かなくなれば、車の運転ができなくなればなおさらである。誰もが乗ることのできる乗り物を考えて欲しいと思う。また、真田地域の御土産、真田地域の食材を生かした食堂のようなものが無いが、真田町の御土産として誇れるようなものが欲しいと思う。

(委員) 公共交通について、昨年から様々な取組みがある路線バスについて数値的な検証が必要と思う。検証した上で今後の取組みを考えていくことが良いと思う。旧上田地域の殿城や神科との連携も必要となってくるかもしれない。また、人口の増加が無ければどうしようも無い

部分の問題がある。地域の定住、人口増というものをどう図っていくのかを考えなければならない。公共交通にも通じることであるが人がいなければどうしようも無い。定住策、人口の増加について何か方策が無いかを議論できないかと思う。

(委員) 魅力ある農業の推進について、真田地域は菅平という野菜の産地があるが、他の地域では遊休荒廃地が増えている。高齢者も儲からないからやらないと農業を辞めてしまう。真田の特色のあるような農産物づくりと、それに携わることで高齢者が生き活きとして、若干のお小遣い稼ぎができるような仕組みづくりができないかと思う。

(委員) これからの菅平の方向性が少し見えてきたので、真田地域の皆さんの御協力をいただきながら進めていきたい。

(会長) 皆さんからの意見は、地域ブランドの確立ということで農業の推進・観光、公共交通について、安心して暮らせる地域づくり、観光についてということが挙げられた。これらを踏まえてテーマを絞っていくが、先程質問のあった地域協議会の位置づけと各自治会組織との兼ね合いについて事務局から説明いただきたい。

(事務局) 地域協議会の任務は、市の諮問機関であることから市から諮問があった場合に、それに対して答申することが一番大きな任務となっている。それ以外には協議会の意見を聞くということで、わがまち魅力アップ応援事業の審査がそれに該当する。また、合併協定書の見直しや重要な公共施設の設置・廃止に対して意見を聞くことも定められている。また、協議会が自ら意見を述べるができるということで地域づくりに関する意見書の提出がある。また、意見書の提出をするために調査・研究をすることとなっており、住民自治の推進や住民と行政との協働によるまちづくりに関して協議いただくこととなっている。これが地域まちづくり方針の具体化ということであり、今、委員の皆さんから挙げられた地域課題に関する御意見からテーマを選び分科会で協議を進めていくかを検討していただいている。意見書の提出は義務ではない、それまでの協議をどのように行うのか、全体会か分科会かを含めて検討いただきたい。

(委員) 地域内分権の確立に向けた第4ステージの展開という大きな方針があるが、その中では今のような説明がなかったと思う。今、各委員の意見を聞いたなかで、防災についてだけは最終的な問題が全て自治会に入るので地域協議会だけで協議しても空転してしまうかと思う。そのほかについては分科会で協議し、自治センターで実行してもらえばよいのかと思う。どこでどのように具現化していくのかが見えないといけない、将来の形が見えた状態で議論を進める必要がある。

(荒井地域振興課長) 合併後の地域において住民の意見をどのように行政に反映させていくのかということで地域協議会が設立された。これまでも様々な協議がなされ意見書が提出され、市が対応していくことである。地域の課題について解決のための調査・研究、地域まちづくり方針の具体化に向けて協議をしていただくということである。地域内分権の第4ステージについては今後全体会で協議いただきたい。

(高橋センター長) これまでの地域協議会は提言するのみで、その結果を追っていない。これから地域協議会あるいは新しい組織が行うのかは別として、皆さんが決めたことを皆さんが決定をし実行をしていくことを見守る組織をつくりあげていくということと思う。本日、今年協議いただく事項が決まることと思うが、将来的にはそこに予算がついて基本的にその実行を、皆さんが中心となってしていくのだという意気込みで取り組んでいただけたらと思う。その際に第4ステージの組織をどのようにしていくのかということもあわせて議論していただくことになるのではないかと思う。

(会長) この地域協議会が実質的な運営までも将来的には考えた組織にしていくのだということと思う。提案だが1番の地域内分権の推進、地域内自治組織、地域経営会議、第4ステージに関しての問題は分科会で突き詰めた話をするには基幹に関わる問題であるので全体の協議会で話を進めてはいかかかと思う。また、本日テーマが決まれば、次回の協議会からは前半を全体会、後半を分科会での協議としたい。分科会の数は委員数を考慮して3分科会として

はいかがか。

(委員) 第4ステージについての協議を重点に置くのではなく、自治センターで対応できることを分科会の協議テーマにしていくということか。

(高橋センター長) 地域内分権については真田地域だけのことではない。地域で特色ある組織づくりということで真田地域は真田の特色を出していかれたら良いが、早急に結論が出るものではない。これから地域協議会の全体会の中で行政からの説明を聞き議論を深めていただけたらと思う。

(会長) 分科会での協議テーマを3つに絞りたい。しかし、テーマ毎に関係することは含めて議論を広げていただくということでいかがか。

・ 全員了承

(会長) テーマとして挙げられたのは、公共交通の問題、安心して暮らせる地域づくりのなかで防災について、地域の人が自立できる生活をということ、観光の問題、農業に関してのこと、地域ブランドということと思う。

(委員) 魅力ある農業の推進と観光は切り離しては考えられない問題と思う。

(会長) 観光振興、農業推進という問題で地域ブランドの確立等を含めたテーマとして1つ、公共交通を1つ、安心して暮らせる地域づくりを1つとしての3つでよろしいでしょうか。

(委員) 安心して暮らせる地域づくりに少子化対策を含めた総括的なものにしていただきたい。また、ここで言う地域とは自治会ではなく真田地域を指し示すものであることを明確にしていきたい。

(会長) 安心して暮らせる真田地域づくりということで生涯学習、生涯スポーツ及び少子化対策を含めた内容の協議とすることでよろしいか。

・ 全員了承

(会長) 分科会ごと委員の皆さんの参加希望を伺います。挙手願います。

～参加を希望する分科会にそれぞれ挙手～

(会長) 若干の人数の偏りがあるので事務局と調整し、次回に原案として皆さんに提示して決定したい。

(2) その他

～中山建設課長から真田地域公共交通利用促進協議会総会について報告～

5 その他

第5回協議会の開催予定について

(副会長) 平成24年8月22日(水)午後7時から行いたい。

6 閉会